

真劍味

193号

2018年10月19日発行



囲碁学生本因坊 岡田さん(p9)

主な内容

- 交換留学生をサポート(国際センターより) ● トビタテ! 留学JAPAN体験談 ● 交換留学生インタビュー
- 就職内定者かく語る ● 囲碁学生本因坊決定戦で優勝 ● 学生・教員の各種受賞／ゼミ研究成果／スポーツ活動 ほか

※表記について：掲載された方の肩書き、学年は全て行事の行われた時のものです。

交換留学生を——サ——ボ——ー——ト——

留学後もフォローできる体制づくりを目指す

○国際センター 梶田 紗希さん



中京大学国際センターは、海外研修の企画、運営、交換留学生の受け入れ、派遣などの業務を行っている。留学希望者を様々な面からサポートしているほか、プログラムやイベントを企画、運営し、国際交流全般に関わる窓口となつていて。中、長期の交換留学生の派遣を担当している行政職員・梶田さんの話を聞いた。

た。学生時代は、教員に相談しながら留学計画を立て、カナダ・モントリオールで5週間の留学を経験。自身の留学については「今は、英語を生かした仕事に携わることができていますが、学生時代の就職活動では留学経験を生かすことができず、悔しい思いをしました」と振り返り「学生には、留学したら終わりではなく、留学前、留学後までフォローでできる体制づくりを目指しています。学生が経験をキヤリアにつなげていけるようにサポートしていく」と話した。

「**外国語を勉強しに行く**」
「**外国语で勉強しに行く**」

交換留学生の窓口業務について「学生の成長を感じることができます。多くの交換留学生は、自分で行動しなければならない環境に置かれることで、考える力を身につけ、顔つき

も変わつて帰ります」と話す。

梶田さんが事前研修で強調して伝えていることは「交換留学は『外国語を勉強しに行く』のではなく『外国語で勉強しに行く』」ということ。「学生には、何を達成したいのか、それに向けて何を準備するのか、深く考えて取り組んでもらうよう呼びかけています」。交換留学の事前研修は1回90分、計10回と手厚いサポートを行っている。「(留学中は)学生に対してもちらからできることは少ない。送りだしたら学生を信じて待つしかないのです。それまでに目的意識を含めた準備を」と力をこめた。

アフターフォローも行っている。

【交換留学とは】

中京大学の代表として海外協定締結大学にて正規留学が行える制度。

このプログラムでは、学生自身の高い語学能力と自己管理能力を前提として、明確な留学計画と留学目標を持つことが求められる。

を取り入れ、ゲームを通して交渉力、観察力、コミュニケーション力を培うとともに自分自身を知る機会を持つことを競う、貿易のシミュレーションゲーム。





トビタテ!
留学JAPAN

その経験が、未来の自信。



国際教養学部3年

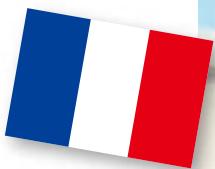
中村 僚我さん

「フランスから『日本酒』の可能性を広げる」をテーマに文部科学省が行う海外留学支援制度「トビタテ！留学 JAPAN」の7期生として11か月間フランスに留学した。



留学当初、パリで今年開催された「ジャポニズム2018」に絡めて、東海地区の酒蔵と協力し、トビタテ生にも呼びかけて大きなイベントの開催を最終目標に据えていた。大使館と調整に努めたが、費用

「トビタテ！ 留学 JAPAN」



を経験して

や宣伝効果の面から断念せざるを得なくなつた。「協力してくれた酒蔵さんに申し訳なく、イベントを開いて日本酒を広められなかつたことで、自分一人で組織する難しさを痛感しました。大きな挫折でした」と話す。

しかしその後、レンヌで開いた試飲会は多くの人が訪れ、大盛況だつた。東海地区に酒蔵がある日本酒を試飲するイベントだ。酒蔵には留学前に協力依頼をしていた。試飲会終了後はパリに移動し、大学に通いながら Kura Master（フランスで開かれる日本酒コンクール）でインターンシップとして働いた。並行して、日本酒の輸入会社 Gallery K Paris でも営業や貿易について学んだ。



Gallery K Paris の代表である宮川圭一郎さんはフランスに日本酒を広めたバイオニアとして知られており、Kura Master の主催者だ。「テレビ番組で宮川さんのことを知り、憧れていました」と言う。

フランスの日本酒イベントに足を運んだ際に宮川さんと知り合い、インターネットショッピングとして働かせてもらうことになった。コンクールの広報や、フランス人ソムリエ招待のための連絡、コンクール以外のイベントの企画・運営に携わることができた。「日本酒を広めたい」という思いは宮川さんのもとで働くことになりました」と振り返った。

フランスで日本酒の良さを伝えるためには説得力がないと伝わらないことを知つた。「最終的な目標は、ソムリエコンクールで優勝すること。ソムリエとして有名な田崎真也さんのように、フランスだけでなく、世界各国に日本酒の良さを伝える伝道師になります」と目標を語る。

『トビタテ！留学 JAPAN』を経験して一番よかつたのは、全国のトビタテ生とつながりを持てたこと。発信している活動、経験を見聞きすることで、自分が学べる機会も増えました」と振り返った。



レンヌで開いた試飲会

交換留学生

グローバルな環境で学びを深める



交換留学は中京大学の代表として海外協定締結大学に正規留学する制度。交換留学の大きなメリットは、本学に学費を納入すれば、派遣先大学の学費が免除されるほか、留学中に取得した単位を読み替えることにより4年間で卒業が可能なこと。2017年度交換留学生は21人（内訳・アメリカ16人、フランス3人、イタリア1人、韓国1人）。海外の大学で9か月間学んできた4人の学生に、留学を通して体験したこと、学んだことを聞いた。

4人の交換留学先(写真右、上から)

高田 慎也さん(国際英語学部)
→リンカーンメモリアル大学 アメリカ

石橋 亜美さん(国際教養学部)
→グルノーブル・アルプ大学 フランス

上村 真穂さん(国際英語学部)
→メダイルカレッジ アメリカ

木村 壮汰さん(国際英語学部)
→マサチューセッツ大学ボストン校 アメリカ

■ 留学をしようと思ったきっかけは何ですか。

石橋 セメスター留学（6か月間）

にするか悩みましたが、せっかく行くなら1年間学びたいと思い、交換留学を選びました。留学で様々な経験をしてから就職活動に臨めることも魅力的でした。

木村 やりたいことと社会で求められることは何かを考えたときに英語を学びたいと思い、国際英語

学部に入学しました。翻訳された英語の本を読んだとき、自分が英語を使えるようになればもっと正確で早い情報を手に入れられると思い、留学を決意しました。

■ 留学で印象に残ったことは何ですか。

上村 留学先の大学ではオフィスワークのアルバイトをしました。

将来、英語を使って仕事をしたいと考えているので、英語での電話対応や書類を実際に見ることができ、自分のキャリアにつながる経験をすることができました。また、キャンパスツアーでは、自分が9か月間勉強してきた英語力を発揮することができました。

高田 留学先ではフラニティと

■ 大変だったことは何ですか。

上村 アメリカ人のルームメイトの生活騒音に悩みました。寮は2人部屋で仕切りもなく、勇気を出して注意しましたが、ルームメイトの生活騒音は直りませんでした。その後、韓国人のルームメイトと住むことになり、問題なく過ごすことができました。





高田 ドイツ人のルームメイトが
ヘッドホンではなく、パソコンで

音楽を聴いていて、勉強に集中できずにいました。しかし、ヘッドホンで聴くように伝えるとすぐに直してくれました。相手も素直に聞いてくれたので、伝えることが

石橋　書類を早く送つてほしいと留学生の大学に伝えても3か月後に来たり、寮も自分で探してと言われたが、そのときは大変でしたが、良い勉強になりました。差別もありましたが、日本人と伝えると態度が変わり、気さくに接してくれました。日本のアニメや漫画の話題で仲良くなりました。

木村 翠かなく自分で探した入居先が写真と全く違い、住めないぐらい汚い部屋でした。大家さんに伝えましたが、「あなたが契約書を読まないからだよ」と言われ、対応してくれませんでした。しかし、新しい入居先で出会った大家さんが法律に詳しい人で、お金を全額返金してもらう協力をしてもう一つ、解説をしておきたい。

帰国後、何が変わりましたか。

木村 様々な考え方を受け入れることができるようになりました。

でした。留学先で出会った人たち
は、将来やりたいことのために大

石橋 アルバイト先で企業の人と話す機会があり、社員の中にも留学

なことに取り組んでいる人のほう
がかつこいいと思うようになります。

高田 多角的な視点から物事を見ることができました。例えば食事

の場合、日本では、味と健康面を
気にします。知りあつたアメリカ
高田 値は高いのではと思ひます。
日本にいるとみんな同じ価値

人は健康的じゃなくても美味しければいいと考えていました。また、ドイツ人は、食事は栄養を摂取するものと考えていて、美味しいなくても栄養のあるものを食べていました。食事の面でも異なる文化観で育つていて、自分のアイデンティティは何か考えたとき答えられなかつたりします。留学してみると、違う背景を持つた人しかいないので、自分のアイデンティティを知ることができます。

上村 留学したから良い就職ができるということではなく、留学はひとつのステップであって、帰つてから何ができるかが大切だと思います。これから始まる就職活動では、留学で培つた力を發揮して、留学の経験を生かして○○をしました！”とはつきり言えるようになります。

上村 留学したから良い就職ができるということを知りました。

上村 自分が当たり前だと思っていたことが国境を越えると全く違うことに気づきました。全然違う考え方を持っている人とたくさん出会つて、様々な考え方を吸収することはとても大切なことだと学びました。

石橋 人生に対する考え方が変わりました。結婚にしても、事実婚をしていたり、子どもはいても結婚はしていないカップルが普通に受け入れられていました。自分が普通だと思っていたこととは違うことが普通でした。こういう生き方もあるんだと思い、勉強になりました。

木村 今はインターネットで検索すれば何でもわかる時代です。そんな時代に、わざわざ留学に行く価値はあるのか考えたうえで、自分が何をしたいのか考えるべきだと思います。将来は、プロツクチエーン（分散型台帳技術）を利⽤した仕事に携わって、日本人が好きなことに向き合える環境をつくりていきたいです。

就職内定者かく語る



上原さんは株式会社資生堂に内定。資生堂は化粧品の製造・販売を主な事業とする日本の企業で、化粧品の国内シェア第1位を誇る。
就職活動で受けた企業はほとんど最終面接までコマを進めたという上原さん。
挑戦を続けた学生生活を語った。

もともと服が大好きで、おしゃれをすることが好きだった。おしゃれをするだけで自分に自信が持てる、明日がくるのが楽しくなるという気持ちになれるからで、服好きが高じて大学1年生のときは個人事業でアパレルブランドを立ち上げた。見よう見まねでデザインを起こし、プロの人を訪ね、勉強しながら販売まで至った。1年間で70万円を売り上げ、商品を売り切った。

ゼロからのスタートだったため、請け負ってくれる企業を探した。そこで感じたのは「熱意は伝わる」ということ。「学生ですがやつてみた

いんです」と話すと、知っている会社に掛け合ってくれる方もいた。
その一方で、自分一人の力で立ちあげ、さらにアピールし、多くの人に自分のブランドを知つてもらうことの難しさを実感した。企業が商品を出せば情報発信力も

目標にたどり着くために

就職活動は3年生6月頃からスタート。志望していた百貨店でのインターンシップの面接を受けたが、夏期は採用されなかつた。そのため冬期インターンシップには絶対に参加したいと考え、雑誌で見つけた、東京の渋谷に本社を持つベンチャーカンパニーに掛け合つた。

この企業はシステム開発の企業で、ファッショントリニティ（インターネット通販）を運営する傍ら実店舗も百貨店に置いている。「百貨店でバイヤーになるために、ここでECを学びたい。採用してください」と直談判した。募集はしていないなかつ

経営学部 経営学科
上原 大典さん
(中京大学附属中京高校)

内定先
株式会社 資生堂
総合職



考え方の変化

たが、熱意を買われてインターンとして2か月半働いた。

就職活動をする中で物事を深く考えるようになり、おしゃれすることが「自分が美しくありたい」「美しく思われたい」と根源にある欲求から生まれるのではないかとう思いに行き着いた。資生堂は企業理念に「美しい生活文化を創造します」とある。社会に貢献したいと思つていている力をダイレクトに伝えられるのではないかと思いつく。百貨店のバイヤーではなく同社を志望するようになつた。

「就職活動よりも入社してから活躍できるかという未来への不安のほうが大きかつた」という。「男女問わず『美』を通して社会を幸せにしたいです」と目標を語る。

「中京大生には、最初から大企業には入れないだろうと諦めてしまっている人が多く、もつたないないと感じます。自信を持ってチャレンジしてほしいです」

後輩へ伝えたいこと

中京大学で心理学を学びたいと思つたきっかけは、中学、高校時代にソフトボール部のキヤブテンを務めたとき、人の心を動かすことの大変さを経験したから。どうしたら相手を傷つけずに自分の意見を伝えられるのか疑問に思つたことがきっかけだった。

「意見を交わしたりアドバイスをもらうことで、違う視点から物事を考えることができ、自分のやりたいことを見つけることができました」と語った。

子育てのしやすい環境をつくりたい

就職活動を始めたのは3年生の夏。夏休みを利用していろんな職種のインターンシップに参加した。「就職活動を始めたばかりの頃は、周りの中京大生はほとんど活動していないなくて、モチベーションを保つのに苦労しました。インターンシップ先で同じ目標を持った他大

学の学生や、企業の方と出会い、意見を交わしたりアドバイスをもらうことでの違った視点から物事を考えることができ、自分のやりたいことを見つけることができました」と語った。

人懐っこいんだろう」と疑問に感じた。聞いてみると、その国では隣近所の人や中高生が子どもの面倒を見てくれることが多く、ベビーシッターの敷居が日本に比べて低いことがわかった。日本でもお母さんたちのコミュニケーションをとる機会を増やすことで、子育てがしやすい環境にできるのではないかと考えるようになった。

そんなとき、ICTを活用して園児の通園の管理や体調チェックを行なうNTT西日本のテレビCMを見て、「ICT技術を利用した課題解決の取り組みを知り、ICTで子育てのしやすい環境づくりに貢献したいと思いました。NTT西日本は、問題を見つけて提案し、プロジェクトを立ち上げることで、解

決に向けて取り組めることも知つて、魅力的だと思いました」と同社を志望し、無事内定を得ることができた。

後輩へ伝えたいこと

「私が一番就職活動の中で感じたかが評価されるということです。私は、留学経験がなくサークルにも所属していなかつたため、就職活動でマイナスになるのではと引け目を感じていました。後輩には日常の中でも問題意識を持ちながら大学生活を送つてほしいと思います」



心理学部 心理学科
本多 史乃さん
(愛知県立西尾高等学校)
内定先
NTT西日本株式会社
総合職

本多さんは、NTT西日本株式会社の総合職に内定。「情報通信技術(ICT)を利用して子育てしやすい環境づくりや地域活性化などの社会の課題解決に向け取り組みたい」と考えている本多さんが就職活動を振り返った。



法学部 法律学科
内藤翔太さん（愛知県立成章高校）

国家公務員総合職は、中央省庁やその出先機関で働き、政策の企画・立案や高度な知識・技術を必要とする重要なポストを担う。中でも法務省は検察・法務に関する国の行政事務を遂行する行政機関。

内藤さんが内定した法務省矯正局は、矯正施設（刑務所や少年院などの保安警備、教育、鑑別、医療、衛生など被収容者に対する処遇が適正に行われるよう指導、監督するとともに、現況に沿った新しい処遇方法について調査研究を行っている。また職員が考えた施策を自身で実施できるめずらしい局。2年目以降は日本全国の刑務所に配属される可能性もあるという。

公務員試験の最難関といわれる国家公務員総合職試験で、今年度は中京大学から9人が合格した。内藤さんは、大卒試験の法律区分で受験し、採用された。（法律区分は申込者10065人、合格者471人、採用者160人程度）

本学学生の中央省庁への内定は3年ぶりとなる。



国家公務員 総合職合格
内定先 法務省 矯正局

『公務員になること』を目指して中京大学に入学しました。大学受験を考えるにあたり、将来についても考えた。ノルマを競うことに苦手意識があつたことから、公務員を目指すようになつたという。そのため、私立を受験する際には、東海地区では有数の公務員合格実績を誇る中京大学法学部を専願した。

高校時代は野球に打ち込み、2年冬から3年生にかけては短い期間で投手から野手に転向した経験もある。「葛藤もありましたが、『短期間での吸収力』が自分の強みになりました」。強みは長所として直接でも生かすことができた。総合職は様々な部署を短期間で回る場合も多いため、「短期間での吸収力」は、仕事でも生かせる長所になると考えた。

後輩にメッセージ

『周りに流されないこと』が内定をもらえたひとつ的原因だと思います。国家公務員、特に総合職は全国トップクラスの大学から受けに来ています。学内の結果で満足せず、自分に合う方法で勉強を頑張ってください』

「公務員になる」と明確な目標があつたため、大学1年の春から2年の冬にかけては宅建や行政書士の資格を取得。公務員試験の勉強にも役立つたという。「目指すからには一番高い目標を立てよう、そこを目指せば行きたいところにも行けるだろうと思いました」。そこで、最難関である国家公務員総合職を志望するようになつた。

毎日弘道塾（※）に通つて、何時

試験に合格すると、官庁訪問を行

就職活動での気づき
(※) 公務員採用試験対策講座の模擬試験成績上位者に提供される自習スペース。



目標のために計画

「公務員になる」と明確な目標があつたため、大学1年の春から2年の冬にかけては宅建や行政書士の資格を取得。公務員試験の勉強にも役立つたという。「目指すからには一番高い目標を立てよう、そこを目指せば行きたいところにも行けるだろうと思いました」。そこで、最難関である国家公務員総合職を志望するようになつた。

高校時代は野球に打ち込み、2年冬から3年生にかけては短い期間で投手から野手に転向した経験もある。「葛藤もありましたが、『短期間での吸収力』が自分の強みになりました」。強みは長所として直接でも生かすことができた。総合職は様々な部署を短期間で回る場合も多いため、「短期間での吸収力」は、仕事でも生かせる長所になると考えた。

後輩にメッセージ

『周りに流されないこと』が内定をもらえたひとつ的原因だと思います。国家公務員、特に総合職は全国トップクラスの大学から受けに来ています。学内の結果で満足せず、自分に合う方法で勉強を頑張ってください』

試験に合格すると、官庁訪問を行

就職活動での気づき
(※) 公務員採用試験対策講座の模擬試験成績上位者に提供される自習スペース。

岡田 健斗さん

優勝

囲碁の学生日本一を決める「第62回日本学生本因坊決定戦」が8月3、4日に東京・市ヶ谷の日本棋院で行われ、岡田健斗さん（現代社会学部4年・アマ7段）が優勝、学生本因坊の座を射とめた。

大会には、北海道・東北・関東・北信越・中部・関西・中国四国・九州の各地区の予選を通過した代表選手32人が出場し、トーナメント方式

囲碁 全日本学生 本因坊決定戦



岡田さんは「緊張することなく平常心で臨むことができたことが、一度競った。

2年間はプロ棋士を目指していたこともあり、毎日10時間練習をしまし

「囲碁を通して謙虚であることの大切さを学びました。プロや幅広い年齢の方と交流し、アドバイスを素直に受け入れることが囲碁の上達につながったと思います。これは、囲碁だけではなく、日常生活でも大切なことだと思います」と話した。

今後については「年齢制限があり、プロ棋士になることはかないませんでしたが、働きながら何らかの形で囲碁に携わっていきたいと思います」と話した。



た。「これだけ練習したのだから負けははずがない」と自分を信じて戦うことができました」と振り返った。

岡田さんは、昨年11月のアマ竜星戦で3位、全日本学生十傑戦で3位を獲得。今年8月に行われた全日本アマ本因坊決定戦では、ベスト8まで勝ち進んだ。

囲碁を始めたきっかけは、小学2年生の授業で高齢者の福祉施設を見学したとき入居者から教わり、囲碁の面白さを知った。その後地元の囲碁教室に通い、中学1年生からはプロ棋士を目指し、趙錫彬（チョウ・ソックビン）さん（2014～2016年ネットアマ棋聖戦優勝）が席主を務める碁会所・中村本因坊（名古屋）に通っている。

「囲碁を通して謙虚であることの大切さを学びました。プロや幅広い年齢の方と交流し、アドバイスを素直に受け入れることが囲碁の上達につながったと思います。これは、囲碁だけではなく、日常生活でも大切なことだと思います」と話した。

今後については「年齢制限があり、プロ棋士になることはかないませんでしたが、働きながら何らかの形で囲碁に携わっていきたいと思いま

●工学部 橋本研究室

「画像セシングシンポジウム」で優秀学術賞



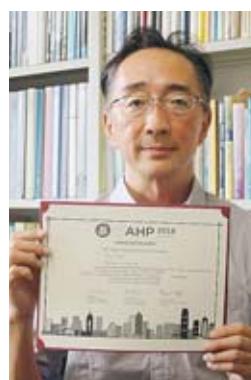
橋本教授(左)と飯塚さん



飯塚さん

工学研究科の服部凌大さん（電気電子工学専攻・修士課程2年）は今年1月に行われた「宇宙輸送シンポジウム」で第5回優秀学生賞を受賞した。同シンポジウムは、宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所（ISAS/JAXA）が開催。輸送系・推進系に関わるシステム研究および基礎研究について、国内の研究者らが集まり研究発表を行う。

受賞論文は「はやぶさ2」表面材料損耗解析に向けたイオンスラスターの逆流イオンのエネルギー計測」がテーマ。小惑星探査機「はやぶさ2」では、イオンエンジン付近に宇宙機器材料の損耗が観測されるが、服部さんの研究チームは、地上実験で実機と同型のイオンエンジンを使い、損耗に関する計測実験を実施。計測装置の製作、大型真空装置による実験、データ分析を通じて、今回の論文にまとめ上げた。



経営学部・佐藤祐司教授が7月12～15日に香港で行われた15th International Symposium on the Analytic Hierarchy Process (SAHPIO) の“The Most Innovative Paper Award”を受賞した。“The Most Innovative Paper Award”はこの学会における最優秀論文賞に相当する。

学会は、2年に一度開催される意思決定論に関する国際学会で、方法論（Analytic Hierarchy Process）に関する論文賞には最大。今回は、2016年のロハモン開催に続く第15回大会。毎回、およそ5か国から約400人の参加者を得て開催されている。主な国には本学会の国内版があり、日本で日本語で開催されている。

佐藤教授の受賞論文は、「Risk

●工学部 服部さん

「宇宙輸送シンポジウム」で優秀学生賞

受賞論文は「はやぶさ2」表面材料損耗解析に向けたイオンスラスターの逆流イオンのエネルギー計測」がテーマ。小惑星探査機「はやぶさ2」では、イオンエンジン付近に宇宙機器材料の損耗が観測されるが、服部さんの研究チームは、地上実験で実機と同型のイオンエンジンを使い、損耗に関する計測実験を実施。計測装置の製作、大型真空装置による実験、データ分析を通じて、今回の論文にまとめ上げた。

各種受賞

工学部・橋本研究室（機械システム工学科）が取り組むNEDO（国際研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）プロジェクトにおける研究が、6月に開かれた「画像センシングシンポジウム（S S I I 2 0 1 8）」で優秀学術賞を受賞した。

受賞論文は「日用品が持つ機能に着目した物体クラスとロボットアプローチ位置の同時推定」。筆頭著者は工学研究科の飯塚正樹さん（修士課程2年）で、秋月秀一さん（中京大学研究員、現・慶應義塾大学）、橋本教授と共に研究を行った。

今回は「生活支援ロボット」をテーマに、対象物の「機能」を人工知能で認識し、さらにアプローチする位置や方向を自動推定する技術を開発した。

●経営学部 佐藤教授 第19回ーのAHPで「The Most Innovative Paper Award」を受賞

Perception of Uncertainties in Supply Chain”。論文は、サプライ・チェーンにおける

不確実性に対するリスク認識に関するもの。需要・品質・

流通過程などに起因する不確実性が、サプライ・チェーンの途絶に与える影響を考慮し、市場の経済的・文化的な状況がマネジメントの主観的因素を含むリスク認識にどのような影響を与えていたかを分析した。先進国と発展途上国双方で事業を展開する企業において事例研究を行い、提案した構造モデルの有効性を検証した点が評価された。

佐藤教授は「今回の受賞を励みに一層研究に精進し、また研究成果を教育に生かしていきたいと思いま

●総合政策学部 社会人基礎力講座ビジネス編

三重県内SA、PAで販売する新商品を提案

三重県内のサービスエリア（SA）、パーキングエリア（PA）のテナントに向けた新商品の提案発表会が7月12日、名古屋キャンパスで開催された。これは総合政策学部の授業「社会人基礎力講座ビジネス編」（宮川正裕教授指導）の一環で、当日は学生約50人のほか、テナント4社と関係者ら11人が参加した。

同講座は、2017年度からNEXCO中日本と産学連携に取り組み、今年度は風味堂（三重県松阪市）



経営学部・中村雅章ゼミは産学連携プロジェクトの一環で本間製パン（愛知県小牧市）とパンを共同開発し

た。中村ゼミの2年生が地元特産品を使用した、新しいパンを考案し、最終的に「海老芋コロッケバーガー」「金平糖メロンパン」「濃厚クリーミブリュレ」の3種を完成させた。6月19日には、名古屋キャンパスでも販売された。

また、同ゼミの3年生は、ナゴヤドーム内の売店「YUMMING（ユーミング）」を運営するユーミングフード（愛知県春日井市）と弁当2種を共同開発。女性向に食べやすさや見栄え

●経営学部 中村ゼミ 産学連携でパン＆弁当を商品化

とともに、三重県内のSA、PAで販売する新商品の誕生を目指す。学生は6チームに分かれ、御在所SAでの現場視察・アンケート調査を行い、チームごとに商品アイデアを立案。今回は「お土産用おかきの新商品」を提案し、テナントに評価してもらう機会となつた。商品は11月頃から、NEXCO中日本のSAで販売される予定。

A collage of images showing four students holding up menus for their new food items, and a large image of two bowls of pasta with a price tag of ¥680.

を重視した「明太子パスタ」「サーモンアボカド丼」を6月22～24日、球場内で限定販売した。

月20日、博物館明治村（以下、明治村）に対する提案発表会を行つた。明治村の集客数を伸ばすためのアイデアを提案するもので、2・3年生たちが約半年かけてアイデアを練り上げた。発表会には明治村長と学芸・催事担当者が参加し、4つのチームの提案を聞いた。提案に対し明治村側からは、「熱のこもった提案で、事業者が気づかない視点が盛り込まれていた」「アンケートでリアルな姿を捉えていた」「我々も良い勉強になつた」などのコメントが寄せられた。



博物館明治村に集客プランを提案

●総合政策学部 坂田ゼミ

総合政策学部・坂田隆文ゼミは7月20日、博物館明治村（以下、明治村）に対する提案発表会を行つた。明治村側からは、「熱のこもった提案で、事業者が気づかない視点が盛り込まれていた」「アンケートでリアルな姿を捉えていた」「我々も良い勉強になつた」などのコメントが寄せられた。



●国際教養学部

アイルランドの国際学会で、 展示スタッフとして学生が活動



今年6月29日～7月3日にアイルランドのダブリンで開催された International Society of Electrophysiology and Kinesiology (国際電気生理運動学会)において、国際教養学部・渡邊航平ゼミ所属の学生3人（石川友規さん、宮本葉月さん、吉田貴洋さん。いずれも3年生）が学会の企業展示ブースにて機器展示スタッフとして活動した。

同学会は2年に1度開かれ、筋肉や神経に関する研究に従事する研究者約600人が集う。学生たちはこれまでに学んだ外国語運用力、英語テキストを使ってゼミで学んだ運動生理学の知識、実験による経験を踏まえ、研究者に対して、展示された機器の特性や使



用方法を英語で説明した。

渡邊准教授は「相手は専門知識を持つ研究者であり、今回の活動は学生にとって貴重な経験になつたに違いない」と話した。

教授によると、現代都市での大量の生産・消費・廃棄が、環境問題や貧困など多くの問題を引き起こすにもかかわらず、現代人は当事者意識を持つことが難しい。そこで、「暮らしを支える食や道具を作り出す過程が見える」「ものづくりを通した人間関係が構築されやすい」ような環境を少しでも実現することことで、持続可能な社会に貢献する

●工学部 メディア工学科 宮田教授

本学学生と香港学生が 授業で共同研究

工学部メディア工学科・宮田義郎教授による授業「メディアとグローバル社会」では、工学部学生に加え、香港理工大学デザイン学部のAlex Ho先生

と学生が共同研究に取り組んでいる。共同研究の目的は、持続可能なもののづくりの学習環境を構築すること。宮田

教授によると、今年5月には同大学の学生26人が来訪し、本学学生と合同でフィールドワークを行った。

ために、この共同研究を始めた。同年では、2016年に香港理工大学の学生らが来訪し、豊田市足助町と小原地区の伝統的なものづくりについて学んだ。さらに

今年5月には同大学の学生26人が来訪し、本学学生と合同でフィールドワークを行った。



●経営学部 矢部ゼミ 学生がM&Aオンラインに寄稿

M&A（企業の合併・買収）に関する情報メディアであるM&Aオンラインに、経営学部・矢部謙介ゼミの学生が執筆した記事が掲載された。

M&Aに関する様々な話題について学生目線で配信する「キャンパス発M&A定期便」において、これまでに「焼き鳥とファミチキの両方を買った『焼鳥』キャンパス発M&A定期便(2)」「大学統合に対する学生の本音」活動している。



URL:<https://maonline.jp/categories/maogirl>

準硬式野球部、インカレで9度目の優勝

準硬式野球の第70回全日本大学選手権大会（インカレ）が8月下旬、静岡県の浜松球場で開かれ、中京大（東海地区代表）は12年ぶり9回目の優勝を飾った。

中京大は2回戦から登場し、東洋大（関東）を接戦の末、2-1で破って波に乗った。続く準々決勝では法政大（関東）を7-0と強豪校に快勝。その勢いのまま準決勝は甲南大（関西）に4-0で勝ち、日本一に輝いた。



アジア大会 小西杏奈選手 競泳100背で銀メダル

インドネシア・ジャカルタで今夏行なわれた第18回アジア競技大会に日本代表として出場した水泳部の小西杏奈選手（スポーツ科4年）は、競泳女子100m背泳ぎで見事に銀メダルを獲得した。後半、懸命に追い上げたが、優勝にわずかに届かなかつた。また、女子100mバタフライの相馬あい選手（スポーツ科3年）が4位に入賞した。



水泳インカレ 学校対抗は男子2位、女子3位

水泳競技の第94回日本学生選手権大会が9月7～9日、横浜市の横浜国際プールで開かれた。中京大は学校対抗で男子が2位、女子は3位の好成績を残した。中京大は男子がトップ、女子は2位につけていたが、惜しくも最終日の800mリレーで逆転を許した。優勝は、男子が明治大、女子は日本体育大だつた。



陸上インカレ 三段跳び 中山選手、ハンマー投げ 古旗選手優勝

陸上競技の第87回日本学生選手権大会が9月6～9日、川崎市の等々力陸上競技場で開かれ、中京大は総合得点で男女とも5位に入つた。
個人では、男子三段跳びの中山昂平選手（体育学研究科2年）が16.53mの好記録（自己ベスト）で、また、男子ハンマー投げの古旗崇裕選手（スポーツ科4年）が66.38mで優勝した。



全日本大学野球 中京大2回戦で白鷗大に惜敗



硬式野球部は愛知大学野球春季リーグで2季連続39回目の優勝を果たし、6月に行なれた大学野球日本一を決める第67回全日本大学選手権に出場した。中京大は1回戦、富士大（北東北）と対戦、4-2と競り勝つてこの大会実に36年ぶりの勝利を飾つた。2回戦は白鷗大（関甲新）に1-3で敗れ、ベスト8入りはならなかつた。



田中恒成選手（2018年春学期経済学部卒、畠中ジム）は9月24日、名古屋市港区の武田テバオーシャンアリーナで行われたプロボクシング世界ボクシング機構（WBO）フライ級タイトルマッチで、チャンピオンの木村翔選手を判定で破り、世界タイトルを獲得した。

田中選手は「生涯忘れられない試合になつた。まだまだ強くあります」と話すと、応援席の盛り上がりも最高潮に達した。

田中選手 プロボクシング 3階級世界制覇

**OPEN
CAMPUS
2018**

オープンキャンパス賑わう

「オープンキャンパス in 名古屋」
過去最多の8763人来場

オープンキャンパス名古屋が7月14、15日の2日間で行われ、計8763人が来場。過去最多の来場数となつた。

学部学科の模擬講義や、学生のプレゼンテーション、入試説明会など例年実施される催しは高校生・保護者で賑わい、各学部の研究紹介やよさこいサークルによる演舞、チアリーディング部によるスタンス・ダンスを楽しむ様子も見られた。

Cスクエアではスポーツミュージアムの第4回プレオープン展示も行われ、多くの高校生がオリンピックの金メダルなどを見て回つた。

また、豊田キャンパスは9月16日に開かれ、1200人が参加した。



浅田真央さん 中京大学リンクで アイスショー

中京大学OBの浅田真央さんは（2014年度スポーツ科学部卒）が8月14日、豊田キャンパスのアイスアリーナでアイスショーを開催した。このアイスショーは全国で開催中の「リンクスツアーア」の一環として行われ、今回対象に約90分間の演技が披露された。観覧した関係者は間近で見るフィギュアスケートに感嘆の声を上げた。



蘇州大学学生代表の馬輝（マ・キ）さんは「学術交流をきっかけに、中国と日本の学生がお互いに交流を深めるための良い機会となりました。今後もより友情を深め、ぜひ中京大学の先生や友人を蘇州に招き、中国の独特的な文化を体験していただきたいです」と話した。



学術交流協定校である中国・蘇州大学学生29人が7月14日、名古屋キャンパスを訪問し、「親睦を深めた」。模擬講義やキャンパス見学、国際教養学部の学生たちと交流するなど親睦を深めた。模擬講義では、国際教養学部の学生とともに統一して行われたアクティブラーニング（※）では、両大学の学生がスマートフォンの翻訳機や身ぶり手ぶりで、互いに自分の意見を伝えようとしている姿が見られた。

※アクティブラーニング
学習者が能動的に学ぶことができるよう授業を行う学習方法。

中国・蘇州大学学生が名古屋キャンパスを訪問

部・張勤教授の指導のもと、日本語と中国語の表現方法の違いについて学んだ。張ゼミの学生とともに統一して行われたアクティブラーニング（※）では、両大学の学生がスマートフォンの翻訳機や身ぶり手

ぶりで、互いに自分の意見を伝えようとしている姿が見られた。

（マ・キ）さんは「学術交流をきっかけに、中国と日本の学生がお互いに交流を深めるための良い機会となりました。今後もより友情を深め、ぜひ中京大学の先生や友人を蘇州に招き、中国の独特的な文化を体験していただきたいです」と話した。

附属高校でALTインターーン



マケイさん



ジェシカさん

留学生がインターーン生として高校でALT（外国語指導助手）を行うプログラムが中京大学附属中京高校で実施され、その成果発表会が7月9日、中京大学名古屋キャンパスで行われた。同プログラムは中京大学が設定し、海外大学の協定校からALTのインターーン生として留学生を受け入れる制度。

発表したのはアメリカから来たマケイ・シュローダーさんとジェシカ・ナッシュさん。2人は中京高校の国際英語クラス（2J、3J）をそれぞれ担当した。国際英語クラスは2年生から始まる選抜クラスで、英語の授業が多いのが特徴。オーストラリアでのホームステイやTOEIC受験対策なども行う。発表会には各クラスの生徒や大学生など約85人が集まつた。

マケイさん、ジェシカさんは、6週間にわたりALTとして授業などに参加。成果発

※JETプログラム
語学指導等を行なう外国青年招致事業（The Japan Exchange and Teaching Programme）の略で、外

国青年を招致して地方自治体等で任用し、外国語教育の充実と地域の国際交流の推進を図る事業。

表会では附属校生との出会いから授業、校内オリエンピックなど出来事を振り返った。マケイさんは「考え方や教育について学んだのはもちろん、言語を超える国際的な理解が大事だ」ということ、周りにやさしく接する大切さを学びました」と話し、ジェシカさんは「先生によって様々な教育があることを知ることができ、それが自分自身の教え方を見つけることに役立ちました」と振り返った。

このあと、マケイさんはJETプログラム（※）を通して神戸でALTとして活動、ジェシカさんは12月に大学を卒業しJETプログラムに応募する予定。

2018年度9月卒業生の卒業式が9月20日、名古屋キヤンバスで行われ、大学院生3人、学部生48人が新しい門出を迎えた。

安村仁志学長は式辞で「人生は3つの期間、過去・現在・未来に分けられる。現在を生きるために過去から学び、この先をより良く生きるために現代から学ぼう」とイギリスの詩人ワーズワースの言葉を贈った。梅村清英総長・理事長は祝辞で「高い志を持つて、常に校訓の『眞剣味』で臨んでください」とお祝いの言葉を述べた。

51人が新たなる門出を迎える

2018年度
9月卒業式



中京大学学長選出のお知らせ

2018年9月28日開催の学校法人梅村学園理事会において、本法人が設置する中京大学の学長任期満了予定（2019年3月末日まで）に伴う次期学長を、現職の安村仁志（やすむら ひとし）氏に決定いたしましたので、お知らせいたします。（任期は2019年4月1日から2年間）



安村 仁志氏プロフィール
1947年生。
大阪外国语大学大学院（ロシア語学専攻）修士課程修了。
1974年中京大学教養部講師。
助教授、教授を経て国際教養学部教授。
教養部長、図書館長、副学長など歴任。2015年より学長。
ロシア正教会史専攻。



〈発行〉中京大学 広報課
〒466-8666名古屋市昭和区八事本町101-2 TEL.052-835-7111(代)